事例No.	2641
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	上区自治会

事例区分	地域活性化

タグ	・公共施設活用 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

上区自治会

出典

平成29年度ふるさとづくり大賞事例集

上区自治会

千葉県南房総市

概　　要



山間の小学校が122年の歴史に幕を閉じましたが、当該小学校を中心に活動してきた地区住民同士の繋がりは強く「学校が閉鎖しても地区に賑わいを！」との想いから「活性化委員会・くすの木王国」を発足。校舎を活用した地域活性化策の検討をスタートした。その後、行政が後押しして校舎の増改築に着手し、体験施設・食堂・宿泊施設等を備えた交流施設『自然の宿くすの木』が平成９年にオープンした。それ以来約20年、一貫して地元住民である上区自治会が運営し、今では年間3,000人程の宿泊者と2万5千人程の利用者があり、ふるさとに”賑わい”と”交流”を生み出している。

評価された点



・小学校廃校跡地の利活用を通じて、地域づくりの気運が盛り上がっている。年間3,000人の宿泊者、25,000人の利用者がいるまで成長。地域内外の交流が促進されたり、数々の事業が生まれることで雇用の創出につながり、20年活動が継続していることは高く評価できる。
・地元住民の発意による地道な活動が、20年間安定的に運営されている点を評価。
・地元住民による自治会が交流施設を運営し、20年の長きにわたって事業を継続、地域経済を活性化させるとともに、女性たちの所得向上を実現した。さらに本事業を通じてコミュニティの結束とネットワークを強め、暮らしの安心、老後の安心を生み出している。”笑顔いっぱい、田舎たっぷり”というキャッチフレーズ通りの魅力的な取り組みであり、称賛に値する。
・廃校を生かした食堂、宿泊施設などの体験施設を整備し、地域のにぎわいを作り出している。継続して20年間の運営は評価できる。
・廃校を活用した地域づくりの成功例のひとつとして評価。
・地域の心の拠り所である「小学校」の閉校という危機を乗り越え、その校舎を活用した取り組みである点と、それが継続的に事業として展開できている点は秀逸である。
・廃校の利活用において地元住民自治のもと20年間安定した経営がなされ利益を生み出している活動事例。
廃校の利用に関して地域住民が主体的に20年間運営を行い、その活動で収益を生み出しながら雇用も増やしている点は、同様の廃校利活用について課題を抱えている地域にとっても参考となる事例であると考える。住民自治の活動とともに交流人口の増加、新たな取り組み等に発展しており、地域経済への発展がさらに期待できる。表彰し他地域への紹介をするとともにさらなる活動を後押ししたい。
・地域住民と都市部とのつながりをつくる窓口として新たな生きがい創出にもつながっている。就業場所として雇用を創出して経済の活性化にも寄与している。伝統文化の継承にもなっていることは、大きな成果だと評価できる。